

たまだれ
No.6

玉垂

宮川の紅葉

小國神社オフィシャルホームページアドレス

<http://www.okunijinja.jp/>

お伊勢さまのお神札

「お伊勢さま」の名で親しまれている伊勢の神宮は、正式には「神宮」と申し上げます。神宮は、皇室の御祖であり日本人の大御祖神、総氏神と仰がれる天照大御神さまをまつる皇大神宮（内宮）と、天照大御神さまのお食事を司り、衣食住はじめ産業の守り神である豊受大御神さまをまつる豊受大神宮（外宮）の両正宮を中心とする百二十五の宮社の総称です。その神宮の神域内で白衣に身を包んだ人々の手により清浄な上にも清浄を期して奉製されるお神札を「神宮大麻」といいます。「大麻」とは、もともとお祓いに使われた麻などのことでしたが、後にお祓いを受けて授けられるお神札のこともこう呼ぶようになりました。私達の住むこの日本の国が、天照大御神さまの御神徳により秩序づけられ発展してきたことに感謝し、古くから神宮大麻をおまつりしてきました。江戸時代迄は「御祓大麻」「御祓いさん」などとも呼ばれ、御師といわれる人々によって配られていました。そして明治五年に明治天皇の御心により神宮司庁から直接全国に頒布されるようになって、今年で百三十周年の記念の年を迎えました。神宮大麻は、天照大御神さまの御力を發揮して頂いて、これを拝むものに恩賴を蒙らして頂くものとして、また、その「大御璽」として大麻をお受けして大御恵を頂くものとして、おまつりされます。

日本には、新年（正月）に、ものみな改まり新しくなるという思想があります。新しい年を清々しく迎え、年毎に御神徳を重ねていただけるよう、毎年暮になると神宮大麻は皆様の氏神さまを通じて頒布されます。神の恵みと祖先の恩とに感謝して「家庭のまつり」を行うことで、やさしさや思いやりにあふれる豊かな心を育み、麗しい伝統を受け継ぐことができます。新年には、神宮大麻・氏神さま・崇敬する神社のお神札をおまつりし神さまとともに清らかな一年を大切にお過ごしください。

明治天皇御製

天てらす神の御光ありてこそ わが日の本はくもらざりけれ

遠江国一宮小國神社古式舞楽保存会の活動

長きに亘り例祭に奉奏されていま
す十二段舞楽が、国の重要無形民俗
文化財に指定されてから二十周年と
いう佳節を迎えました。

これまで、舞楽師匠・舞人達を中心
に保存に努めてまいりましたが、こ
の度これを契機に今までの保存会の
内容を見直し、九月一日臨時総会を
設け、新たに「遠江国一宮小國神社
古式舞楽保存会」として活動を興す
こととなりました。

当会は例祭舞楽奉奏並びに保存伝承の
ため、この伝統文化を通し広く人格
の育成を培い、神社及び地域の発
展・隆昌を活動目的としています。
この目的達成のため、主に舞楽関係
者により構成され、またこの活動を
支援していただくため賛助会を組織
いたしました。

賛助会の主な規程は、

○賛助会の会員は、遠江国一宮小國
神社古式舞楽保存会の趣旨に賛同
する個人または法人とする。

○賛助会費は、一口以上とし、年会
費は次のとおりとする。

- 1 個人会員
 - 一口 三、〇〇〇円
- 2 法人会員
 - 一口 一〇、〇〇〇円

○会員は、例祭舞楽の拝観招待をす
る。

当会は賛助会員を募集しております
ので、この旨、ご賛同いただけます方
は、

小國神社社務所
電話〇五三八一八九七三〇二
までお申し込み願います。

― 指定二十周年事業 ―

この度、(財) 伝統文化活性化国
民協会より教育委員会を通して、
「平成十三年度ふるさと文化再興事
業援助活動」としまして援助金を賜
り、太鼓・龍笛十管・太平楽(子供
舞) 用衣裳二領を新調し、臨時総会
にてご披露いたしました。



龍 笛



太 鼓



太平楽(子供舞) 用衣裳

舞楽 — 遠江打球楽 —

平成十五年夏、静岡県において第五十八回国民体育大会「NEW!!わかふじ国体」が開催されます。

ここ森町においてはゴルフ競技が開催されます。それに伴い競技伝統芸能として「舞楽 遠江打球楽」が創作されました。これは当社並びに天宮神社の舞楽師匠の皆様の指導により、大阪四天王寺の「舞楽 打毬楽」をもとにして誕生した新しい舞楽です。

舞人は、静岡県立森高校・周智高校の郷土芸能クラブの生徒さんによるもので、八月九日には当社舞殿において奉奏いたしました。

また、八月十九日・二十日には国体のリハーサルともなる県高等学校ゴルフ選手権大会が葛城ゴルフ倶楽部において開催され、本番さながらの開始式にて披露され、注目を浴びました。

歴史・伝統の中から新しいものが生まれ、若い力
が加わり、継
承されること
は、すばらし
いことです。
この舞楽が、
森町の一層の
発展に役立つ
ことと期待し
たいものです。



遠江打球楽

菊花展の開催

十一月一日より十五日の間、森町菊盛会（代表山本喜重氏）の皆様により丹精込めて育てられた菊二三〇鉢が拝殿前に展示されました。大菊の三輪仕立てや千輪仕立て、菅物、小菊の懸崖作りや盆栽仕立て等、日本園芸の粋とも言われる和菊を中心に華やかさの内にも気品を感じさせてくれました。

菊は桜と共に日本の国花とも言える代表的な花で、その気高い美しさから皇室の御紋章と定められているのはよく知られるところであります。

日精草・百代草・千代見草・延寿華とも称えられ、三香（桂・水仙）や四君子（蘭・梅・竹、五友（蘭・蓮・梅・竹）の一つに挙げられます。高尚・清浄・真実・逆境の中でも元気などの花言葉があり、七五三参りのお子様の姿も晴れやかで、ちょっぴり気高く、そして神々しくも見えました。



小國神社賞

森町ライオンズクラブホームステイ

ライオンズクラブでは毎年世界中の多くの若者に他国の文化や生活を体験してもらうためにホストファミリーのお世話をしております。

今年森町ライオンズクラブの担当として、フィンランド出身のリーナ・ジュリアーナ・シユポライネンさんが、七月八日から八月十三日までの約一ヶ月間、会員の皆様のお宅にホームステイされ、当社宮司宅にも一週間程お泊まりになりました。滞在中は当社の祭典に参列され、ご神前に玉串を捧げられました。また、宮司ご夫妻の案内で県内の史跡や漁港を視察し、また日本の伝統文化の竹細工や染め物を体験されました。フィンランドには山があまり無いとのことで、日本の山を見てとても感動されていたのが印象的でした。



7月18日・月次祭参列

境内林育成除間伐の実施

立秋を迎えた八月初旬、境内林育成のため除間伐事業を実施しました。これは社叢の茂り過ぎを防ぐため不適当な木を伐採し、健全な育成を促すことを目的として実施するものであります。今回は宮川沿いの杉・桧二十本程を森町森林組合に依頼し伐採しました。また、伐採された木は、建物の小修理等に利用されるため蓄えられます。

歴代の神職・氏子の人々により営々と守り継がれてきた「神在す森」を後世に引き継ぐ重要な事業でありますので、これからも随時実施する予定であります。



境内林

振興会研修旅行

理事 鈴木三千雄

前日の雨も止んで好天に恵まれた九月九日・十日に、一泊二日の行程で北陸方面に行つて参りました。参加者は、宮司さんと事務局の神官さん二名を含み総勢四十一名です。会員の希望を尊重して親睦を図ることを主題に企画された今回の旅行、前回一昨年と同じ方面で宿泊地もすべて同じで、芦原温泉グランドホテルとなりまして。神社を八時出発のバスは、高速道路を快適に目的地へ向つて進み、乗務員の鈴木ドライバーとガイド役の石川女史は、毎度特別指名のお馴染みさんであります。車窓より望む名所旧跡の案内は、機智に富んで弁舌さわやかに、エピソードなど入れながらのガイド振りはずが一流であります。一同時間の過ぎるのも忘れて聞き惚れていると、初日の見学地、



剣神社参拝

につき越前二宮と仰がれ格式が高く、劔大明神の叡智と勇気を頂き難局打開の御神徳を授けられたものと信じます。予定より少し早目にホテルに着き、時間に余裕を持ち、ゆつくりと温泉の醍醐味を味わい嬉しく思い、宴会の席場へ白と杵が運び込まれ会員有志の手際良い餅つきが始まり応援の掛け声勇ましく瞬く間に揚ぎ上がりました。黄粉餅が配られつきたての味は、又格別でした。翌朝はホテルを九時発にて、福井県立恐竜博物館を見学し、三〇mのエスカレーターにて恐竜の世界へと吸い込まれました。四五〇〇平方mの広大な展示室には、三〇体以上の恐竜の骨格を始め千数百点の標本と大型復元模型の映像は雄大で、ロマンと驚きを感じた次第です。

周遊最後は、旧福井藩松平家の菩提所である花しょうぶの寺大安禅寺へ参拝しました。本堂に上がり来歴などを寺の職員より聞き、「一に掃除、二に笑顔、三四元気でおかげさま」「人生心の花を咲かせましょ。」が大安和尚のテーマです。ビデオを見ながら坐禅にチャレンジ！と思う様に足が組めず苦痛を感じつつも精一心統一の坐禅体験をしました。

振興会五十周年の記念すべき節目の年に明日への活力をいただく意義深い旅行となりました。皆さんの御協力に心から感謝とお礼を申し上げます。

振興会青年部による事待池の清掃

暑さもまだまだ盛んな八月十八日、振興会青年部の方達により参道脇にあります事待池の清掃が実施されました。これは、日頃なかなか活動に参加できないので、せめて何か協力できる事はないかと青年部の方達が発案され、当日

は会長・副会長とともにご奉仕頂きました。池の水を膝の高さまで水を抜き、手には自作の道具や熊手等を持ち池に入り、池底の枯れ枝等を取り除きました。半日掛けてトラック五杯程の量となりました。終了後は入浴し、直会の席上ではまた来年も実施したいとの声もうかがえました。



命 名

平成十四年八月一日〜平成十四年九月三十日

- | | | | | | |
|-------|------|-------|-----|-------|-----|
| 木野 愛美 | 浅羽町 | 小嶋 夏実 | 浜松市 | 横山 絢也 | 菊川町 |
| 村松良文希 | 浜松市 | 小平 空汰 | 森 町 | 竹下 郁哉 | 袋井市 |
| 黒田 流聖 | 袋井市 | 中田菜津美 | 袋井市 | 竹下 遼佳 | 袋井市 |
| 小澤 真帆 | 袋井市 | 鈴木 涼介 | 浜松市 | 曾根 諒乃 | 袋井市 |
| 鈴木 大翔 | 袋井市 | 原 歩子 | 浅羽町 | 大澤 祐太 | 天竜市 |
| 服部 瑞生 | 袋井市 | 天野 太陽 | 磐田市 | 鈴木 柊磨 | 袋井市 |
| 篠崎 咲哉 | 浜岡町 | 鶴田 乙歌 | 磐田市 | 屋宮 麻耶 | 浜松市 |
| 岡部 莉奈 | 袋井市 | 鈴木このみ | 袋井市 | 油井 美空 | 細江町 |
| 秋山 東香 | 袋井市 | 斎藤 梨花 | 袋井市 | 諸井 貴斗 | 袋井市 |
| 杉山 夏菜 | 掛川市 | 深田 龍 | 袋井市 | 澤野 卓臣 | 袋井市 |
| 市川 拓郎 | 掛川市 | 花鳥 康平 | 森 町 | 山田 峻輔 | 掛川市 |
| 本間 千晴 | 袋井市 | 清野 瑞貴 | 菊川町 | 大井 穂華 | 豊岡村 |
| 荒井 彩吹 | 榛原町 | 加藤 優登 | 豊田町 | 鈴木小乃花 | 浜北市 |
| 渡邊 静花 | 掛川市 | 伊藤 杏 | 豊田町 | 大草 実優 | 福田町 |
| 袴田 陽香 | 掛川市 | 大林 千夏 | 浜北市 | 乗松 勇哉 | 森 町 |
| 大石 裕斗 | 小笠町 | 山田 芽依 | 浜松市 | 石黒 想 | 森 町 |
| 蔵迫 亮太 | 豊橋市 | 永田 夏凜 | 袋井市 | 大鐘 優奈 | 福田町 |
| 高木 拓海 | 大須賀町 | 佐野 翔和 | 袋井市 | 倉見 紗奈 | 袋井市 |
| 溝口 莉央 | 浅羽町 | 松下 紗奈 | 菊川町 | 片桐 綾真 | 袋井市 |
| 鈴木 伸哉 | 森 町 | 永井涼太郎 | 舞阪町 | 倉嶋 慶 | 袋井市 |

○当社では、お子様の命名を申し受けております。

まつり歳時記

十一月～二月

十一月 霜月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 三日 明治祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 七日 山神社例祭 (午前十時)
- 十五日 七五三祝祭 (午前九時)
- 十八日 月次祭・稲祭 (午前九時)
- 十九日 疫神齋 (午前二時)
- 二十一日 地鎮祭 (午前九時)
- 二十三日 新嘗祭 (午前十時)
- 二十四日 奉納農産物品評会 (午前十時)
- 三十日 もみじまつり (午前十時)
- 山芋賞味会 (午前十一時)

一月 睦月

- 一日 初祈禱祭 (午前零時)
- 一日 歳旦祭 (午前三時)
- 二日 日供始祭 (午前八時)
- 三日 元始祭・追儺祭 (午前八時)
- 三日 田遊祭 (午後一時)
- 六日 本宮山例祭 (午前八時)
- 七日 神明宮参拜 (午前八時半)
- 十一日 手鉦始祭 (午前九時)
- 十六日 寒の丑日水汲祭 (午前二時)
- 十七日 八王子社例祭 (午前九時)
- 十七日 御弓始祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 十九日 どんど焼祭 (午前九時)

十二月 師走

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 十八日 滝宮社例祭 (午前十時)
- 十八日 初穂献納祭 (午前十一時半)
- 二十二日 甲子祭 (午前九時)
- 二十三日 天長節祭 (午前九時)
- 二十三日 鎮火祭 (午後三時)
- 二十五日 煤払祭 (午後三時)
- 三十一日 大祓式・除夜祭 (午後三時)

二月 如月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 三日 節分祭 世話人祈禱祭 (午前十一時)
- 三日 節分祭 (午後二時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十一日 紀元節祭 (午前十時半)
- 十五日 竈社・鯉子社・山神社例祭 (午前九時)
- 十五日 塩井神社例祭 (午前十時)
- 十八日 祈年祭 (午前十時)
- 二十日 初甲子祭 (午前九時)

紅葉祭山芋賞味会

例年、十一月中旬から下旬になりますと境内のみみじが見頃となり、これに合わせて紅葉祭・山芋賞味会を執り行います。本年は、十一月三十日(土)午前十一時より紅や黄色のみみじで彩られた拝殿において、予め申し込まれた七十名程の方たちのご参列をいただき祭典を齎行し、神札等を授与致しました。

その後の直会では、当地名産の山芋(滋養強壮の効果がある)や山菜料理・竹筒で燗をつけたご神酒等をご賞味いただき、晩秋のひとつときをお楽しみいただきました。

毎年十月下旬頃よりご参加の募集を致しておりますので、もみじ狩りをおかねながら是非一度お申し込みください。



古代の森シリーズ⑥

勅使参道

延宝年間の社記によれば、大宝元年(七〇二)の春に勅使が参向し神前に奉幣され、勅使御覧のもとに十二段の舞楽が奉奏されたこと記されています。勅使が通られた参道は、一般の参道とは区別されていて「勅使参道」と言われ、現在その勅使参道跡が一の鳥居のところにある下馬橋から社務所までの参道の東側に当時の面影を残しています。参道跡は下馬橋からすすむにつれなだらかに上つていき社務所前の「駒止めの杉」まで細い道のような通りがつかえています。勅使は、この杉に駒(馬)をつなぎ神前に奉幣されました。参道跡には杉の大木が立ち並び、古の跡が偲べれます。



勅使参道

本宮山例祭

新春の一月六日、厳しさを増す寒さの中、本宮山例祭が斎行されます。標高五一メートルの本宮山は、小國神社の御祭神大己貴命が最初に天降られた場所です。山頂には奥磐戸神社が鎮斎されており御祭神の荒魂をお祀りしています。

午前九時に送迎バスが神社を出発し、途中より登山道を歩き山頂をめざします。午前十時祭典が始まり宮司の祝詞奏上後、ご参列の皆様には玉串を奉り拝礼をしていただきます。

祭典後には、神札を授与し、直会では当社にて醸造しました古式神酒(ドブロク)・おむすび・大豆の煮豆・田作り・甘酒をふるまいます。この祭典には、一般の方も参列出来ますのでご希望の方は当社までご連絡下さい。



本宮山・奥磐戸神社

御弓始祭

一月十七日午前九時の八王子社例祭(宮司奉仕による奉射神事があります。)の後、午前十時より御弓始祭が斎行されます。

拝殿にて祝詞奏上、巫女舞、金幣によるお清めに引き続き、舞殿東側の射場へ移動し、地射手が奉射神事を奉仕します。地射手は太郎・次郎・三郎二名の計四名で、先ず太郎と次郎が一組になり甲矢乙矢の二本ずつを、次いで三郎二名が同様に奉射致します。射手からの迄約二十八メートル。日置流の作法にて弓を引き絞る姿は、凛とした緊張感にあふれます。年占、五穀豊穰や武芸上達を願う事始めの神事として、また、解き放たれた矢は、神棚へ供えたり門口に差し立てると魔除けや子供の夜泣き封じになると伝えられます。奉射神事後、再び拝殿へ戻り玉串奏奠と続きます。祭典終了後、社務所裏の射場で競射会が執り行われます。



御弓始祭・奉射神事

新春祈禱のご案内

来る平成十五年の新春に家内安全・商売繁昌・交通安全・職場安全等のご祈禱をご奉仕致します。当日の受付は混雑が予想されるため、当社では年内の予約受付を致しておりますのでご利用ください。皆様お揃いでご参拝くださいますようご案内申し上げます。

- 一、予約対象 会社及び個人事業者
- 一、申込方法 電話またはFAX等にて申し受けます。
- 一、申込期間 十二月二十五日頃まで。

一、ご相談、ご不明の点がありましたら、左記までお問い合わせ下さい。
 小國神社 新春予約祈禱係
 TEL0538(八九)七三〇二
 FAX0538(八九)七三六七



初詣の社頭

厄除大祭のご案内

一月二十六日より二月三日まで厄除け大祭を執り行います。厄年は数え年で、男性は二十五、四十二、六十一才。女性は十九、三十三、三十七才の前三年となります。本年厄年に当る方は、「厄除」のご祈禱をお受けになり健やかな日々の生活をお過しください。

- 祈禱料 五、〇〇〇円より
- 厄除大祭神札及び御守を授与致します。
- 祈禱受付 午前九時〜午後四時

平成15年	性別	厄				
		前	本	後		
男子	昭和	19年	18年	17年		
	昭和	60才	61才	62才		
	昭和	38年	37年	36年		
	昭和	41才	42才	43才		
	昭和	55年	54年	53年		
女子	昭和	24才	25才	26才		
	昭和	43年	42年	41年		
	昭和	36才	37才	38才		
	昭和	47年	46年	45年		
	昭和	32才	33才	34才		
		昭和	61年	60年	昭和	59年
		昭和	18才	19才	昭和	20才



「秋の写真コンテスト」開催

秋も深まる十一月中旬から十二月初旬にかけて境内をはじめ宮川沿いの一〇〇〇本あまりの紅葉が色づき、晩秋を楽しむ多くの方で終日賑わいます。

そこでこの度、小國神社では写真コンテスト実行委員会を設け、秋をテーマにした写真コンテストを開催することとなりました。応募作品は、本年の紅葉・祭事・もみじまつりなどの風景全般になります。スナップ写真も審査の対象になりますので、お気軽にご応募ください。

締切は十二月二十五日必着となります。審査は写真コンテスト実行委員会と富士写真フイルム(株)で行います。発表は平成十五年二月上旬に予定し、入賞者に直接通知します。

なお、写真展は森町文化会館で三月四日から十六日まで開催します。詳しくは、写真コンテスト係までお問い合わせ下さい。



七五三風景

「大祓式」のご案内

人は日頃たとえどんなに正しいおこない・生活を心がけていても、意識的にしろ無意識にしろ少なからずちよつとした過ちを犯しているものです。思い起こせば何かしら心当たりがあるのではないのでしょうか？日々心身についた数々のちいさな過ちを祓い清め、あらためて正常な状態に戻し、淨く明るく正しく直き生活が送れるよう願う神事が大祓です。

大祓は六月と十二月の晦日、年二回行われます。特に六月を夏越の祓、十二月を年越の祓といい、大きな節目に行われます。方法といたしましては、平安時代に宮中において祭祀に關わった中臣氏が唱えた大祓詞(中臣祓)を唱え、人形を用い、お祓いした後に、海や川に流します。人形とは、個々の罪や諸災・厄を移すことにより身代わりとなる形代で、これに氏名・生年月日を書き、身体を撫で、息を吹き掛け願いを託すものです。当社では、十二月三十一日午後三時より大祓式を行います。ご参列いただければ、ご一緒に



大祓人形

お祓いをいたします。尚、人形は十二月初旬頃より社頭にておわけいたしております。また、郵送での取り扱いも承っておりますので、ご希望の方は、小國神社社務所までお問い合わせください。

お問い合わせ先
小國神社 大祓係
TEL 〇五三八一八八九一七三〇二
FAX 〇五三八一八八九一七三六七

「小國の杜・点描」

山茶花 (さざんか)

ツバキ科ツバキ属 常緑小高木
晩秋から冬にかけて控え目な甘い香りの花を咲かせ、姫椿・茶梅・雪粧・清貴とも呼ばれます。日本原産で江戸時代に世界へ紹介されました。謙譲(赤)・愛敬(白)・理想の恋などの花言葉をもち、森町(当社鎮座地)の「町の木」に指定されています。



山茶花

松葉蘭 (まつばらん)

シダ類マツバラノ科 常緑多年草
関東以南の暖地の岩石や樹木、地面などに見られ、高さ十〜四十cmほどになります。線形で緑色の姿を松葉に見立てた名で、ホーキランとの別称もあります。



まつばらん

ります。江戸時代には、観賞用として百二十種余りもの品種が栽培されたそうです。本殿前石垣等で見ることができず。

晒菜升麻 (さらしなしょうま)

キンポウゲ科サラシナショウマ属 多年草
山地の林内や草地に生え、五十〜百五十cmの高さになります。若葉をゆでて水によくさらして食用にしたことによる名で、漢方では根茎を乾燥させたものを升麻と呼び鎮痛や解熱などに用います。八〜十月に長さ十〜三十cmの白い花穂をつけます。



さらしなしょうま

金木犀 (きんもくせい)

モクセイ科モクセイ属 常緑小高木
九〜十月、葉腋に多数の橙黄色の小花をつけ、丹桂・九里香とも称されます。甘く強い芳香に比して花は意外と目立ちにくいことから、謙遜・高潔といった花言葉が当てられています。葉の汚れを嫌い、空気が汚染されていると、花を咲かせにくいといわれます。



きんもくせい

巫女さんの想い

寒さも日に日に増し、神社の境内は鮮やかな秋色に染まっています。紅葉の赤色は秋空の下、益々深みを増して、その変わり行く景観は肌寒いこの季節に見る目薬しく、心暖かくしてくれます。

北風が紅葉を散らし終わる頃には冬も本番になり、一年の終わりが近づいていきます。新たな年に向け気を引き締めていきます。(〇)

編集 後記

〇「玉垂」第六号をお届け致します。

六月一日より開設いたしました神社のホームページには多くの皆様にアクセスいただき利用されている現状です。

〇七五三の時期になりますと、境内には色彩豊かな衣裳を身にまとったお祝いのお子様達で賑わいます。紅葉も負けじと色づき始め、まばゆいばかりです。

表紙写真について

平成十四年十一月十五日午前十一時、社務所の横を流れる宮川の紅葉を撮影致しました。赤い橋を組みこんだ写真は、神社らしさを感じさせてくれる絶好のスポットです。

平成十四年十一月一日
「玉垂」(たまたれ) 第六号
発行 小國神社社務所
郵便番号 四三七一〇二二六
住所 静岡県周智郡森町一宮三九五六一
電話番号 〇五三八(八九) 七三〇二
FAX 〇五三八(八九) 七三六七
印刷 専サインオフィス エム・エス・シー